

学校再開にあたっての校長先生のお話 2009年5月25日(月)

お早うございます。今朝、皆さんの元気な姿を拝見でき、私始め、先生方は大変喜んでおります。5月18日、突然降ってきた非常事態。城星学園の誰もが公平に共通して受けなければならない前代未聞の出来事でした。職員室は普段とは異なり、先生方の思いは“生徒に感染者がでないでほしい”“生徒は外出しないでいられるかな？”“生活を崩さなければいいが・・・”などと普段以上の心をあちらこちらへと配っておられました。これが本当の“心配”なのだと漢字の素晴らしさを感じました。

さて、1つのエピソードを紹介します。5月20日に孫の出産に立ち会わなければならない85歳のおばあちゃんに出会いました。おばあちゃんは「今回のインフルエンザ騒ぎは“戦時中の燈下管制のようだ”B29が来ると、裸電球に布をかぶせ灯りを暗くした。これと口にマスクをして敵から隠れることと同じだ。私はもう長くないからいいけど、あなたはまだ若い、もっと積極的に考えないと」と言われました。

おばあちゃんの気持ちは大変複雑のようで、歴史を過ごしていた分だけいろいろな考え、思いがあるようでした。おばあちゃんが「積極的に考えないと」と言われたA型インフルエンザは予防するにも感染ルートがつかめていない、ワクチンがまだ生産されていないことから、学校としては最善の安全環境づくりにつとめます。健康チェック（検温）、教室内の消毒、生徒の皆さんには自分の身体は自分で守る鉄則に“手洗い”と“うがい”の励行をお願いします。これが出逢った85歳の先輩のおばあちゃんへの積極的な応答です。